

# 無線通信諮問委員会 (RAG) 第24回会合結果概要



総務省 総合通信基盤局 電波部  
電波政策課 国際周波数政策室  
室長

かんだ よういち  
菅田 洋一



総務省 総合通信基盤局 電波部  
電波政策課 国際周波数政策室  
国際政策係員

こぎそ あやな  
小木曾 彩菜

## 1. はじめに

無線通信諮問委員会 (RAG: Radiocommunication Advisory Group) は、無線通信部門 (ITU-R) における優先順位や戦略の検討、研究委員会 (SG: Study Group) の活動の指針の策定、ITUの他部門との協力や調整の促進等を行い、無線通信局長 (BR局長) に助言することを任務としている。

RAG会合は通常年1回開催されており、今会合は、2017年4月26日～28日の3日間の日程でITU本部 (スイス・ジュネーブ) において開催された。出席者は、36か国の主管庁、民間企業、ITU事務局から約95名であり、我が国からは、総務省、放送事業者等から4名が出席した。

以下に、主な議題に関する議論の概要について紹介する。

## 2. 2019年世界無線総会 (RA-19)、世界無線通信会議 (WRC-19) に向けた準備

### 2.1 CPI (Conference Proposals Interface) 準備状況について

寄与文書作成を支援するオンラインツールであるCPIの開発状況について、WRC-19に間に合うよう準備が進められている旨が報告され、RAGはBRに対して2017年11月にジュネーブで開催予定の第1回ITU Inter-regional Workshopにて、本ツールのデモンストレーションを実施するよう要請した。

### 2.2 WRC-19に向けた広報活動について

広報担当から、ITUの統一的なイメージを醸成する活動の一貫として、同チームで取り組んでいる活動が報告され、WRC-19に向けたレターヘッド、旗、バッジ、アジェンダ用といった複数のロゴ案が発表された。各種デザインは検討、作成進行途上であるものの、一部の主管庁からは、ITU-Rとして予算が不足している中で、ロゴ作成に多くの費用を割くことに懸念が示された。BRからはVI (Visual Identity) をITUとして統一することで、これまで重複していた広報に

関わる作業が効率化できる点や、デジタル時代に即してどのデバイスからも見やすいロゴが求められている旨が説明された。

### 2.3 CPM-2の開催期間の短縮

昨年のRAG会合においてフランスが提案したWRC準備会合 (CPM: Conference Preparatory Meeting) の開催期間短縮について、再度フランスから寄与文書が提出され審議が行われた。フランスの提案は、現在のCPMの体制を基本的に支持するものの、WRC前に取りまとめられるCPMテキストに係る作業方法を変更することで、CPM第2会合の期間を短縮できるというものである。RAGはこの意見を記録した上で、各主管庁に対して、RA-19においてITU-R決議2の改訂に関する意見を各国が自由に提出できる旨を示した。

## 3. ITU理事会 (Council-17) (2017年5月15日～25日) 関連事項

### 3.1 WRC-19及びRA19の日程、開催地について

エジプトが、2019年のWRC-19及びRA-19について、同国のシャルム・エル・シェイクを開催地として公式にホスト国として立候補した旨が報告され、理事会にて審議される予定であることが発表された。

### 3.2 ITU文書へのアクセスポリシーについて

無料でオンラインアクセスできるITU文書について、勧告に加えて、今年1月からハンドブックもアクセスが可能になっている旨が報告された。

### 3.3 非静止衛星 (NGSO) 網ファイリングのコストリカバリーについて

ロシアから、NGSOファイリングの申請が増加し、また内容も複雑になっていることから、BRにおける処理に遅延が発生している問題が指摘された。本件は、ITU-Rの予



算及び人的資源の不足とも関連するものであるため、理事会で対応を検討するよう要請することとされた。

## 4. WRC-15決議の実施について

### 4.1 決議907の実施について

衛星通信網の事前公表、調整及び通告におけるBRと主管庁間の管理上の連絡について新しい電子的手段の利用を定める決議907 (WRC-15改) を実施するために、現在ラポートグループにおいて議論が行われており、主管庁やBRのコミュニケーションを円滑にするためのシステムが開発されている旨が報告された。

### 4.2 決議908の実施について

衛星網ファイリングの電子申請・公表を行うための決議908の実施について、我が国から寄与文書を提出し、ITU-Rへの拠出金により本決議のためのプロジェクトを支援する旨を表明した上で、既存のシステムの改善点を提案し、BRへの対応を求めた。BRは、日本の多大な貢献に賛辞を述べるとともに、日本からの提案を今後の作業において考慮していくとし、本プロジェクトの進捗を次回RAG会合において報告することとされた。

## 5. SGの活動報告

各SGにおける活動の進捗が報告され、全体としてWRC関連事項の活動が進行している旨が周知された。SG参加者数(リモート参加含む)が増加しており、会合開催のための会議室が不足している点、また関連する会合の日程に重複が発生している点が問題点として指摘され、希望する会合へ参加できない事態を避けるための対応をBRに求めた。ITUの新しいビルを建造する際には、十分な会議室を確保することを求める点も確認された。

また、これまでRAGにおいて様式が検討され、BR局長ガイドラインに示されているITU-R勧告の共通フォーマットについて、注記・脚注の定義を明確化するために、我が国から寄与文書を入力しRAGでの対応を要請した。RAGは、

RRが参照するITU-R勧告への影響がないことを確保する必要性と、日本に対し、具体的な修正提案があれば今後も引き続きRAG等で適切な対応を要請することを確認した。

## 6. ITU-R運用計画案(2018-2021年)

BR局長より、ITU-R及び事務総局の2018-2021年の4か年運用計画が示された。ITU-Rの運用計画は、ITU条約第5条の87Aに従い、今後4年間を対象とし毎年作成されることとなっているものである。審議の結果、部分的な修正が行われたほか、今後の運用計画及び戦略計画において、BRとITU-Rとの役割を区別することや、指標に用いる統計数値は信頼できる数値を使用することが要請された上で、計画案は承認された。

## 7. BR情報システム

BRにて現在Phase3として取り組まれている情報システムの更改に係る活動の報告が行われた。我が国が拠出し支援を行ってきたITU-R文書検索データベースのプロジェクトについては、一部の作業を残して概ね完了している旨が報告され、我が国からは、寄与文書を入力して、今後の同データベースにおける持続的なメンテナンスの確保を要請した。

## 8. SG90周年に向けた活動

2017年に90周年を迎えるSG (CCIR及びITU-R) を祝し、広報のために2017年を通じて一連のアウトリーチ活動を実施する活動計画が報告された。WSISフォーラム(6月)やITUテレコムワールド(9月)において、SGの活動を政府・主管庁レベルで示すためのパネルディスカッションの実施が検討されており、ITUテレコムワールドでは、主管庁やBRのこれまでのSG活動に係る展示を実施するために、BRが200平米のブースを確保予定である旨が発表された。

## 9. 次回のRAG会合

次回RAG(第25回)会合は、2018年3月26日から29日の4日間で実施予定である。